

# 「ようついで腰椎圧迫骨折は

## 早めに治療を」



総合診療科医師

日野 瑛太

山香病院だより vol.85

一であり、入院となる場合がほとんどです。安静にすることで骨折部の治癒が促進され、痛みは徐々に改善します。

安静中はベッド上で手足運動のリハビリを行います。その後コルセットを作成・着用し、離床・歩行リハビリを開始し、リハビリの目途が立てば退院の流れとなります。コルセットは2〜3か月着用することが多いです。

経過中に骨粗鬆症の治療薬も開始します。

### ■さいごに

圧迫骨折は治療開始が早ければ早いほど予後は良好です（特に発症後3H以内）。

また圧迫骨折の危険因子として骨粗鬆症が挙げられますが、5月から当院で骨密度検査が受けられるようになりました。症状が思い当たる方、骨密度が気になる方はぜひご相談ください。

初めまして、4月から山香病院に勤務しているH野と申します。今回は、高齢者（特に女性）の腰痛の原因として多い「腰椎圧迫骨折」に関してお話しいたします。

### ■症状・特徴

転倒したり、畑仕事など腰に負荷のかかる日常動作などでよく発症しますが、約半数は発症原因が不明と言われています（つまり、軽い動作でも生じるということです）。

特徴として「立ったり座ったりすると痛みがあるが、立ってしまえば何とかなる」ことが挙げられます。

そのため、発症してから病院を受診するまでの期間が延

びてしまう場合が多々ありますが、そのままにしておくこと1〜2週間で圧潰が進行すると言われています。

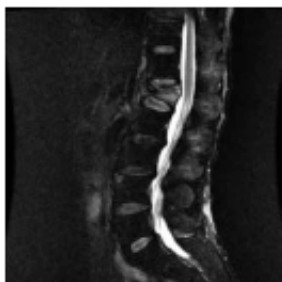
進行すれば、「偽関節」となり、痛みが長く続いて下肢の麻痺や排泄障害が生じる危険性があります。

### ■検査

レントゲン撮影で脊椎の圧潰を確認します。しかし古い圧迫骨折があると新規かどうかの判断が困難な場合があります。その場合、MRIにて新旧を区別することが大方可能です。（下図参照）

### ■治療

急性期はベッド上安静が第



（写真上 1/3 の白く沿っている部分が新しい圧迫骨折と考えられます）